

ちんこきょうだいの

いわての

とってまき!

魅力わんこ盛りのいわてから、いいもの、面白いものをよりすぐり。毎回わんこきょうだいがナビゲートします。

今月のテーマ
美しく使いやすい
介護用食器

機能性と美しさを両立



介護用食器というと機能性に目がいきがちだけど、思わず手に取りたくなるような美しい食器があるんだ。県内の磁器・漆器・木工職人が力を合わせて作った「てまる」という食器シリーズだよ。



片手でも使える工夫を

「てまる」には、使いやすい工夫がいっぱい。片手でもすくえるように皿の縁に返しを付けたり、おわんに指が掛かるくぼみを付けたり。スプーンも握りやすいように持ち手を太くしているんだ。

岩手の介護用食器を世界へ!



介護用の食器だけど、普段の暮らしで使う人や子ども用にも買う人も多いんだって。輸出も視野に入れているそうで、岩手のユニバーサルデザインが世界で活躍するかもしれないね。

体が不自由な人が
使いやすい食器は
みんなに優しいね。



®わんこきょうだい



「てまる」は、素材が、磁器、漆器、拭き漆の3つ。種類は、わん、皿、おかず鉢、カップ、スプーンの5つです。
[問]滝沢市・陶菜(とうらい)019-618-9796

今月の表紙



るんびにい美術館の皆さんと活動する株式会社ハラルボニーの松田文登さんと崇弥さん。左が文登さん、右が崇弥さん、中央が二人の兄・翔太さん。

株式会社ハラルボニーの松田文登さんと崇弥さんとるんびにい美術館の皆さん

色鮮やかで幾何学的なパターン。規則的に続く円の

連なり……。型破りで魅力的

なアートを生み出す、花巻市

の「るんびにい美術館」の作

家たち。知的障がいを持つ

彼らは、魂から湧き上がる

表現を作品にぶつけます。

——こうした作品をネクタイや

傘のデザインに応用した

り、工事現場の仮囲いにプ

リントしてまちを彩るなど、

障がいのある方と社会をつ

なぐ活動をしているのが、

株式会社ハラルボニー。会

社を率いる松田文登さん

と崇弥さん兄弟は、二人の

と崇弥さん兄弟は、二人の

兄・翔太さんが自閉症だったことから、「いずれは福祉を仕事に」と思うようになってきました。

転機となったのは、るん

びにい美術館との出会い。

「作品からあふれる強烈な

個性が素晴らしい。知的

障がいという個性があるか

らこそ描ける世界があると

思います」と崇弥さん。

作家たちは「障がい者」

ではなく、それぞれの世界

を持つ唯一無二の「個人」。

ハラルボニーは、一人ひと

りの価値観や意志を尊重し

ながら、その作品を新しい

形で社会につなぐ仕組みづ

くりに取り組んでいます。

「僕らの目標は、障がい

者に対する意識を変えてい

くこと。そのためにいろん

な方法でアプローチしてい

きたい」と、文登さん。障

がいを一つの個性と認め合

う社会を目指しています。